

【草花の部屋】

エビネ (ラン科エビネ属 *Calanthe discolor*)

和名：エビネ (海老根) **別名**：ジエビネ、ヤブエビネ、エビネラン

英名：

ラン目 常緑多年草

原産地：日本、朝鮮半島、中国

花言葉：謙虚、誠実、にぎやかな人柄、忠実

花色：白、桃、赤、橙、黄、緑、紫、茶、黒、複色



← 写真-1 エビネ

撮影日：2020 年 04 月 28 日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん

↘ 写真-2 エビネ

撮影日：2020 年 04 月 28 日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん



エビネの仲間には春咲き種と夏咲き種があり、春咲きエビネの代表がエビネ (*Calanthe discolor*) で、ジエビネとも呼ばれています。かつては各地の低山に普通に見られた常緑のラン科の植物で、落葉広葉樹林の落ち葉が厚く積もった場所に生え、群生していたそうです。

地下には球根のような偽鱗茎(バルブ)が 10

個前後連なっていて、エビの背のように見えることから、エビネと呼ばれています。また、エビネは同じ場所に生えるほかのエビネ類と自然に交雑しやすく、さまざまな雑種が見られるそうです。

エビネの花期は4月～5月です。花期になると、葉の間から花茎を伸ばし、上部に茶で唇弁は白の花、まれに緑や赤、薄黄色と唇弁が桃色や薄黄色のコンビの花を10～30輪ほどの花を穂状に咲かせます。

花は径1～2cm程度で、萼片、側花弁、中心部分の唇弁から構成されるラン科の植物らしい形状をしており、華麗で気品のある姿をしています。

葉は長楕円形で2～3枚が茎に付き、縦に5本の脈が入ります。秋に翌年の新芽を出し、冬の間に少し成長して春に大きく展開します。葉は陰影が美しく、常緑で耐陰性もあるため、シェードガーデンによく植栽されるそうです。

エビネは、直射日光は葉焼けの原因になり、枯れてしまうことがあるので一年を通じて風通しのよい半日陰で育てるのがポイントだそうです。ただし、日があまりに当たらないと花付きが悪くなるので、ときどき日光が差し込むような明るい日陰が理想的だそうです。また、蒸れや暑さが苦手な植物だそうです。

エビネの仲間は、日本に約20種、アジア中南部、アフリカ南東部、オーストラリア北東部、オセアニアの島々、中米メキシコなどに約200種が分布するそうです。日本では、北海道南西部から沖縄にかけて分布しているそうです。以前は数多くのエビネが日本に自生していましたが、その数は減少しており、現在は準絶滅危惧種として保護されています。

<ちょっと一言>

*春咲きエビネには、キエビネ、キリシマエビネ、ニオイエビネなどがあり、キエビネのほかは育てるのが難しいそうです。